

こども教育宝仙大学 研究室だより 第14回

「インクルーシブな保育って？」

保育者が保育中に「発達が気になる」「行動が何となく気になる」と感じる子どものことを「気になる子」と言われています。気になる子は、友だちとうまく遊べなかったり、トラブルが絶えなかったりします。幼稚園、保育園などでは、以前から気になる子が増えてきていると言われています。

クラスには、気になる子を含め、実に様々な子どもがいます。障害がある子どももいない子どももいれば、国籍や言葉、風習が違う子どももいます。インクルーシブな保育とは、このような多様な子どもがいることを前提とした保育です。したがって、インクルーシブな保育の実現には、多様な子どもたちが「充実して遊べる」「活動



に取り組める」といった環境を整えることが求められます。具体的には「どのように気になる子を含めたクラスへの保育を実践していくのか?」「どのようにクラスの子どもの人間関係を築いていくのか?」といったことを継続的に検討していく必要があります。

現実的には、難しい面もありますが、今後さらに多様な子どもの増加が予想されるため、インクルーシブな保育の充実が必要となります。互いを認め合い、子



どもも保育者も、そして保護者も、みんなが共に育ちあうインクルーシブな保育を目指していきましょう!

(守巧 研究分野：幼児教育学、保育学、特別支援教育学)